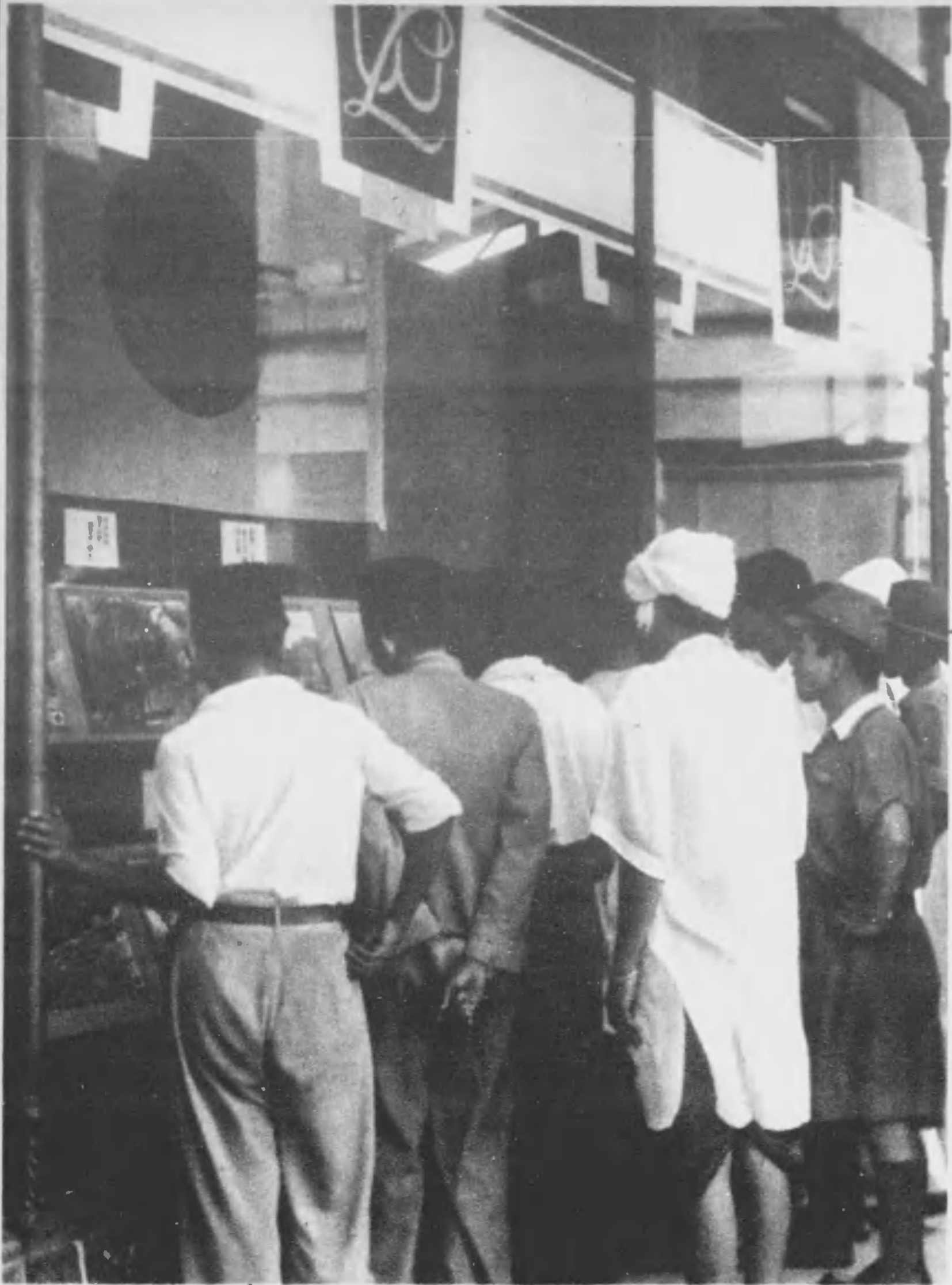


ガバと大地に伏せれば  
 ムツと衝く草いきれ、眼もくらむ照り返し  
 剣は萎え、銃も熔ける  
 敵陣にそゞぐ兩眼に滲み入る汗  
 手も離せず、ぬぐひもあへず  
 × ×  
 なんの諸君、銃後にあつて  
 手に扇を持ちながら  
 これしきの暑さ



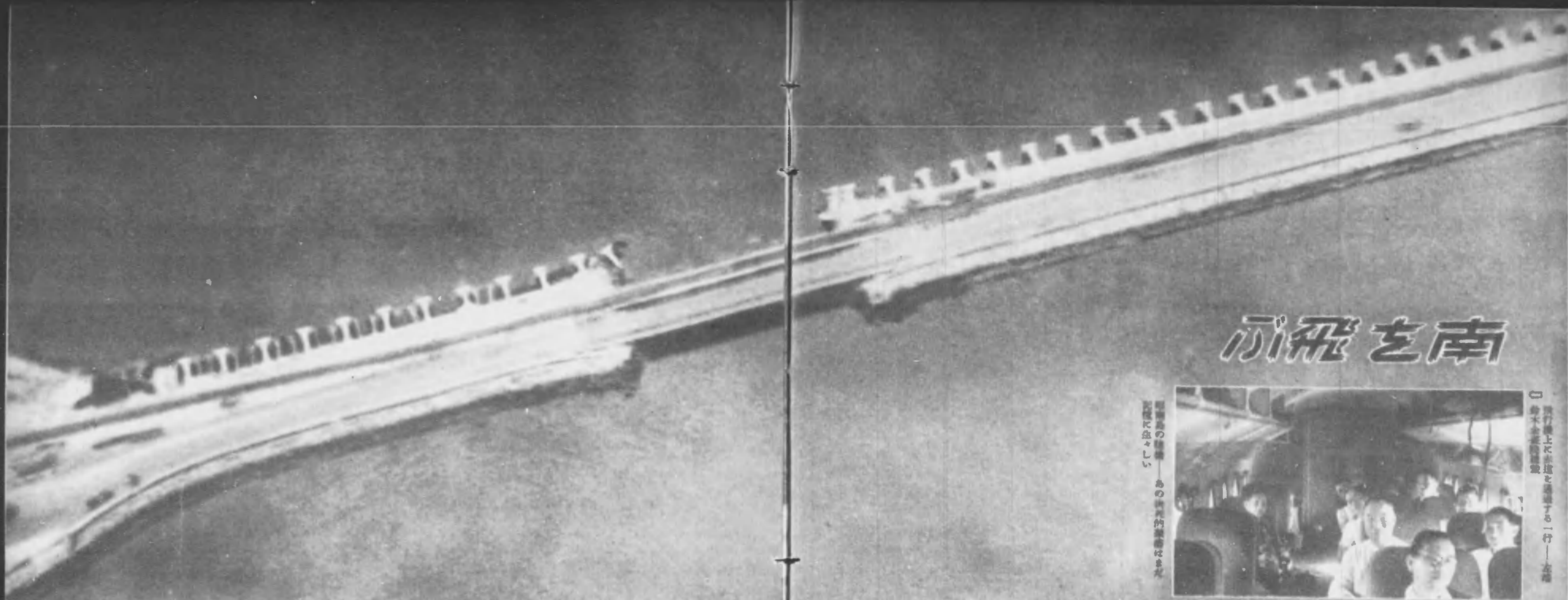
「時の立札」は地へ轉戦その他に利用下さい



日本色に榮へる昭南島

日一日、日本色を増してゆく昭南島の盛り場や街の所々に寫眞連報の指示板や節意がある。寫眞のいれ替る度にマレー人、インド人、華僑などは各圖語で書かれた説明を丹念に讀んではまた寫眞に見入る。輝かしく生々しいわが戦果や、戦争下日本の微動もしない國情紹介の寫眞が報道されるたびに、彼等はむつかしい文字がわからなくても寫眞からちかちかに日本の認識を深め、新生昭南島の新しい息遣いが彼等にもはつきり解るやうになつてきた

昭南島の街頭で  
 撮影 陸軍報道班



# 南を飛ぶ



飛行機で北進と南進する一行——左端  
鈴木全蔵院長

現地の様子——あの史的な遺跡はま  
るかに生々しい



白い建物、長い道路、緑の樹  
——ここは比島再建の新しい風景だ



モリス島マナド——南洋最下層部隊は  
この空から飛び下りた



ジャヴァ島バタヴィア——金部とい  
たるだけあって、すかに樹が多い



スマトラ島ムン河——バレンバン政略は  
この河の進行によっても行はれた

## ハンマー を振る者

鈴木全蔵院長談

私は七月初め福岡を立つて昭南、スマトラ、ジャヴァ、ボルネオ、セレベス、フィリピン等、南方占領地一帯を一巡して建設工作に邁進してゐる軍民活動の状況を観察してきました。

そこで私がごく短期間でしたが一巡してきた観察を述べますと、軍政治下の住民といふものは、何しろ地域も廣大なものであり、従来の統治の仕方もそれ／＼異つてをり、それ／＼民族の歴史も、文化も生活も違つてゐるので、その統治の仕方といふものも、なかなかむづかしいと思ひますが、兎に角、日本軍に對して絶対的な信頼を持つてをり、皆日本軍の治下にあつて、その生に安んじてゐます。また積極的に戦争の慘禍の復讐、開設といつたことに協力してゐる状態です。將來この住民を日本の生活に合ふやうに導いてゆくことが必要であると思ひます。

現地の兵隊さんは、各々軍人勲章を本職して、士氣は非常に昂揚してゐます。ですから、いろいろの復讐や開發には内地では殆んど想像のできないほど活潑な活動をしてゐて、無から有を生ずるやうな状態であります。これはひとへに兵隊さんがすべて生命を投げ出して事にあたる愛國の精神と不屈の

闘志があるからで、さういふ境が建設の面の上に躍動してゐるからであります。

従つてそこにある住民も日本人も、原動力である兵隊さんがそんなふうでありますから、絶対に内地では見られない活潑な活動をしてゐます。よく内地で南は暑くて暮しくいといひますが、そんなことはありません。日本の内地のやうに春夏秋冬の四季の變化がないから、長くそこにゐたらどういふ影響が肉體や精神にあるか知れませんが、要するに個々の人間の心の持ちやうだと思ひます。

現地を観察して感じたことは、錢後の皆さんも現地にゐる兵隊さんの戦闘精神でやつていたといふことと、兵隊さんだけが戦争をしてゐるんぢやない、國民全部が戦争をしてゐるんだ、つまり石炭を掘る者は石炭を掘ることによつて米英と戦つてゐるんだ、汽車の運輸に従事してゐる者は、それに依つて米英と戦つてゐるんだ、アメリカの艦隊やアメリカの汽船大と戦つてゐるんだ、日本の農夫はアメリカの農人と戦つてゐるので、どつちが強いのか、どつちが能率のかといふことによつて戦争の勝敗が決まるといふ昔のやうに他人が戦争してゐるんだといふた氣持では固いのでありまして、戦争といふものは總力戦です。ですから、各々が各々の部門で、ハンマーを振る者はそのハンマーを振ふことによつて、向ふのハンマーと叩き合ひをやつて、やつつけるのだといふ考へを堅く持つて、この戦争を勝ち抜かなければいけないのであります。

















軍神の生家を訪ねて

本郷少年團 菅澤 隆

汽車は前橋駅に着きました。一同は直ちに軍神岩佐中佐の生家に向ひました。今、私達が歩いてゐるこの道は、ありし日の軍神岩佐中佐が、中学校へ通ふ時、又、兵學校からの歸郷の時、こやかに踏みしめた道であると思ふと一歩一歩歩くにつれて、ひとりでの足に力がともつて来るのを感じるのです。やがて辿り着いた中佐の家は、草葎の繁る家でありました。

お父様は、お清園の上に端坐なさつて、こちらをちつと御覧になつていらつしやいました。その左右にはお母様と二人のお兄様が、きちんと一列に並んで坐つておられました。やがて小倉團長先生が「東京の八十五万青少年代表として東京からも軍神のやうな立派な方が出ますやうに、今日一日このお家の子供にしていただく、御両親のお話を伺ひたいと思つて参りました」とおつしやいますと、お父様は「東京からも必ず軍神が出ますよ」と申されました。そのお聲は静かで力強く、丁度團長先生のやうでした。又「お父様お母様のおいひつけをよく守ることは、特別義行をしようと思はなくとも、それがそのまゝ、親孝行なのです。直情はよく言ふことをきいたよ」とおつしやいました。この有難い御教訓は、あたゝかく私達の心にしみとほ

るのでした。その時お母様は、お話を聴いてゐる私達を團長であらうでござつたり、冷い水を御馳走して下さつたりしました。私達はたいへん感謝するばかりでした。やがてお母様が「女の人は、男の人より毎日一時間か一時間早く早起きて、ために働かなくては行けませんよ」といふ御教訓を下さいました。やがて御清園にゆかづきますと、思ひ起こすことは昭和十六年十二月八日の發表でありました。あの大戦果が傳へられた後、わが方の機密飛行機二十九機、特殊機五機を大破した。

あゝ、五機を大破した。嵐の夜に涙あり。何といふ沈痛な發表でせう。この特殊機五機の中に、軍神岩佐中佐が、三千年來傳統の日本精神の権化として帝國を永遠に護るべく棄つてゐたのであります。私は、額を上げて軍神岩佐中佐のお顔を見ました。軍神の顔には、眞實味があふれ、烈たる氣魄がみなぎつてをられた。これは歴い決意を胸の奥に秘めてゐられるお顔でありました。御清園には、中佐の偉大なる勳功を物語るやうな各方面からの花輪や切花が、いっぱい置かれておりました。やがて名残りを惜んで私達一同は岩佐中佐の家を後にした。

私達の住む大東京には、上御一人のおいで遊ばす宮城があります。この光榮ある帝都八十五万の青少年團員は、誓つて第二、第三の岩佐中佐となつなければなりません。よし軍神とならなくとも、軍神そのもののやうな精神であるべき神の國日本の光を輝かすなければなりません。軍神岩佐中佐敬慕派遣員としての名譽を約つた私は、この感激を水久に胸に抱き、一寸ちに軍神岩佐中佐のちと歩みぬいと願つて参ります。



軍神の魂を心に刻み

大少年たちは、毎日軍神と起居をともにするためにこの寫眞と答辭をお手紙にいたして参りました。

答辭

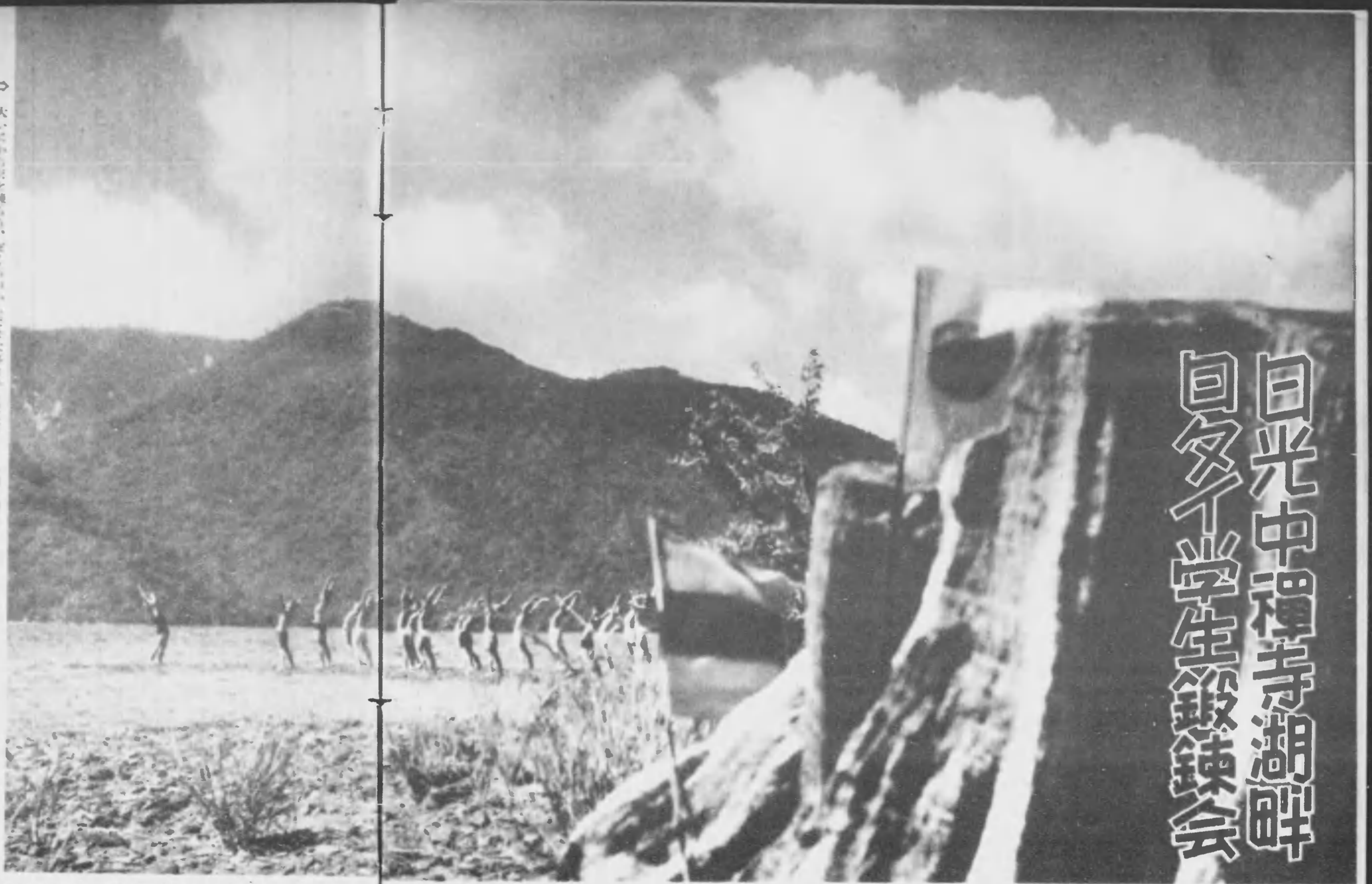
私は六年八月一日に生まれました。父は、大日本帝國海軍少佐、母は、大日本帝國海軍少佐の御子として生まれました。父は、大日本帝國海軍少佐として、母は、大日本帝國海軍少佐として、ともに大日本帝國海軍に奉仕しました。私は、父の御志を継ぎ、大日本帝國海軍に奉仕することを誓ひました。父の御志を継ぎ、大日本帝國海軍に奉仕することを誓ひました。父の御志を継ぎ、大日本帝國海軍に奉仕することを誓ひました。

追討も子供たち

軍神が信仰してゐるお母様が、お父様と二人のお兄様と一緒に坐つておられました。お父様は、お清園の上に端坐なさつて、こちらをちつと御覧になつていらつしやいました。その左右にはお母様と二人のお兄様が、きちんと一列に並んで坐つておられました。



# 日光中禪寺湖畔 日タイ学生総練習会



大いなる喜びを味わう、彼らはこの日は大成功の日だ。中禪寺湖畔



国威の増進にも増して大切なのは神國國民精神の交感である。一日、東照宮に参拝し、この神威に頼った徳川時代の武士を回想した。

先ごろはビヤ・パホン中將の来訪、今度は廣田さんのタイ訪問と、このころ日タイの関係は、人も及び親善ぶりです。この美しい交感が多たない拍子となつて、日本は強い、日本は親切だと、タイ民族の間には誰いふとなしに我が國への信頼感がだん／＼深くなつてゆくやうです。このごろ、タイ民族の日本語熱は盛んなものです。なぜ日本は強いのか、日本の高い文化はどうしてできたのだらう等々、これを知らない何より日本語を習はねばならぬ、できれば日本へ行つて勉強したい、さういふ氣持が特にタイの知識階級の間で強くなつて強くなつてゐるといふことです。これといふのも、強く、正しく、そして親切な東洋の盟主としてのわが國の姿が、だん／＼理解されてきた結果に外なりません。

現在までのところ、わが國に來て希望の胸を挫かれないで學んでゐるタイ學生は約百六十人あまりですが、これらの學生はあらゆる學問の領域に亘つて知識を磨く一方、わが學生と魂の交感をして、日本精神の真髓にふれようと努力してゐます。

去る七月二十二日から一週間、奥日光「龍頭山の家」で開かれた「日タイ協會主催の日タイ學生総練習会」は、日タイ學生親善の一つの催しでした。日本側からは東京外語タイ語科學生十五名、タイ側からも同じく十五名の學生が参加し、奥日光の山の大氣を胸いっぱい吸ひながら、日タイの連帯たるべき心身を鍛錬しました。



日光の男女青年は、交感のついで、楽しい昼食交感に夜を忘れる。なかでもブーヤン・ソーン・パット君はこの夜の輝きであった。



カビ／＼とした一日、起振動作は學生総練習会の名に背かない。夜十時頃、呼が終つて、古魯のヤン・チャンカセム君が學監に今日一日の行事を報告する。日タイの歴史をめぐつて語はそれからそれへと、左端と右端の両方、右端はソーン・パット君、右端はワラン殿下の御前子ブーヤン・ソーン・パット君。



